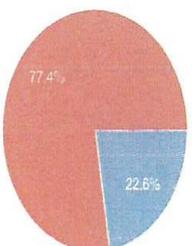
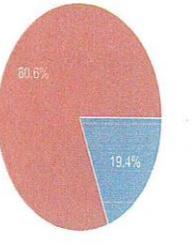
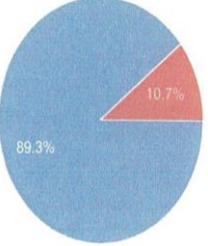
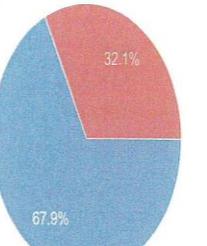
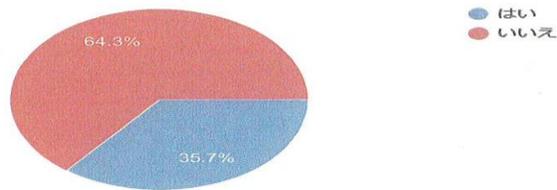


令和5年度 延岡しろやま支援学校 校内研究のまとめ

部門	学体研グループ	学部																									
研究テーマ	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための 資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方 （令和5年度学体研の研究主題）																										
研究の内容と方法	令和7年度延岡地区が主催する学体研に向け研究を行った。種目はバドミントンで、知的障がい教育部門の中学部と高等部で授業を行った。 <ol style="list-style-type: none"> アンケートの実施 授業前後で運動やバドミントンに関するアンケートを実施する。 年間指導計画の見直し 中学部と高等部のつながりのある授業を目指し、年間指導計画を見直す。 バドミントンにおける技能段階表の作成 小学校と中学校の学習指導要領を参考に、特別支援学校の各段階に落とし込む。 ICTの活用 <ul style="list-style-type: none"> バドミントン部の生徒を見本とし動画を撮影し動きのポイントなどを伝える。 お互いに動画を撮影し課題を見つける。 タブレットを利用して自己評価やチームでの評価ができるようにする。 																										
研究の成果	<ol style="list-style-type: none"> アンケートの実施 単元の最後のアンケートでは、「バドミントンが楽しかったか」「上手になったか」「友達にアドバイスができたか」「授業以外でバドミントンを観たり、行ったりしたか」という項目で「はい」と回答した生徒が増えていた。豊かなスポーツライフにつながる変容につながったと感じる。 <事前アンケート(一部抜粋)> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="343 1187 790 1545"> <p>4. バドミントンのルールをしていますか？ 31件の回答</p>  <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>はい</td><td>77.4%</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>22.6%</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="893 1187 1340 1545"> <p>5. 体育のじゅぎょうで ともだちに なげかたや やりかたなどを アドバイスしたことは ありますか？ 31件の回答</p>  <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>はい</td><td>80.6%</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>19.4%</td></tr> </table> </div> </div> <事後アンケート(一部抜粋)> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="327 1680 790 2038"> <p>2. バドミントンの じゅぎょうは たのしかった ですか？ 28件の回答</p>  <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>はい</td><td>89.3%</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>10.7%</td></tr> </table> </div> <div data-bbox="917 1680 1380 2038"> <p>3. バドミントンは じょうずに なりましたか？ 28件の回答</p>  <table border="1"> <tr><th>回答</th><th>割合</th></tr> <tr><td>はい</td><td>67.9%</td></tr> <tr><td>いいえ</td><td>32.1%</td></tr> </table> </div> </div> 			回答	割合	はい	77.4%	いいえ	22.6%	回答	割合	はい	80.6%	いいえ	19.4%	回答	割合	はい	89.3%	いいえ	10.7%	回答	割合	はい	67.9%	いいえ	32.1%
回答	割合																										
はい	77.4%																										
いいえ	22.6%																										
回答	割合																										
はい	80.6%																										
いいえ	19.4%																										
回答	割合																										
はい	89.3%																										
いいえ	10.7%																										
回答	割合																										
はい	67.9%																										
いいえ	32.1%																										

4. バドミントンの じゅぎょうで ともだちに アドバイス できましたか？

28 件の回答



「はい」とこたえた人は、どのような アドバイスが できましたか？（じゅうにかいてください）

5 件の回答

声のかけかた

風船がきたよと、教えた。

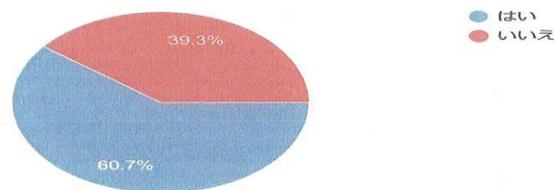
動き

ほめた

がばんれーと言いました

5. テレビや インターネットで バドミントンを見たり、じゅぎょういがないで バドミントンを したり しましたか？

28 件の回答



2 年間指導計画の見直し

同じ時期に単元を合わせることで、情報の共有や系統的な指導について考えることができた。

3 技能段階表の作成

技能段階表は、実態に応じて段階的に指導ができるツールとして作成した。この表により、中学部と高等部のつながりが分かり、系統的・発展的に指導することができるものとなった。また、体育科職員だけでなく、指導に関わる全職員と共有することで指導の手立てを共通理解できるのではないかと思われる。今後は、来年度の活用に向けて検討していく。（以下に、高等部の第2段階を例示する。）

	チェック	活動内容	技能段階	手立て
高等部 2 段階		バドミントン (シングルス、 ダブルス)	基本となるグリップの握り方が できる。(イースタングリッ プ・ウエスタングリッ プ)	グリップの握り方の写真の提示 を行う。 自分にあったグリップを探す。
			シャトルを受ける前の身体や ラケットの構え方(準備姿勢) ができる。	構え方の写真を提示する。 足の位置など細かく支援する。
			シャトルを捉える位置への移 動の仕方(ステップ)ができ る。	一連の動きを全体で合わせ、 状況に応じた動きの確認を行 う。 反復練習を行い、基本となる動 きを身に付けさせる。
			腕やラケットの振り方(テイク バックやスイング)ができる。	捉える位置への動きと連動さ せ、最適な動きの確認を行う。

中学校学習指導要
領の入学年次及び
2 学年の例示を、特
別支援学校高等部
2 段階で活用した。

				簡易的なゲームを行いながら、楽しく反復練習を行う。
			シャトルやラケットの中心を捉えて、サービスすることができる。	ラケットの位置（ラケットの面の位置や傾きなど）や状況を把握させ、力の強弱についても一緒に練習していく。ICTを活用し、動画を提示する。グループまたはペアに分かれて、練習させる。
			シャトルを返す方向にラケット面を向けて打つことができる。	ラケットの位置（ラケットの面の位置や傾きなど）や状況を把握させ、どの方向シャトルが飛ぶのかを理解させる。また、ICTを使って、正しい打ち分けができるように理解させる。
			相手側のコートの空いた場所にシャトルを返すことができる。	簡易的なゲームで、楽しく競い合いながら取り組む。打球の強弱を意識させた練習を行う。
			テイクバックをとって肩より高い位置からシャトルを打ち込むことができる。	グループまたはペアでタブレットを使い、お互いの動きを撮影し、振り返りを行わせる。グループまたはペアで話し合い、良かった点や改善点などを話し合わせる。テイクバック以外の動きも確認する。
			相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。	状況に応じた準備姿勢を理解させる。
			プレイを開始するときは、定位に戻るることができる。	マーカーなどでポジションを視覚的に示す。 簡易的なゲームを用いて、動きの練習を行わせる。
			シャトルを打ったり受けたりした後、シャトルや相手に正対することができる。	ゲームを通じて、動きの確認を行い、タブレットを使い、自分たちの動きの確認を行う。

4 ICT の活用

本校にはバドミントン部があり、見本動画を撮り授業の中で活用した。部活動生の表現の場になると共に、部活動生以外の生徒の意欲につながった。

授業の中で動画の撮影をすることで客観的に自分の動きを知ることができ、改善に向けて思考する力が高まった。

今後に向けて
(課題)

年間指導計画の見直しや技能段階表の活用については、小学部を含めた縦のつながりを更に考える必要がある。また、1単元の時間数が少なかった。1単元の時間を確保することで更なる学びにつながると感じる。ICT の活用については、授業の目的にあった効果的な使用方法を検討していく。評価表については、バドミントンに限らずどの単元でも活用できるものを検討し、作成していきたい。

